

令和5年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	看護学群
学 群 長 名	高橋 和子

1-①. 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	【継続】 週当たりの授業外の学習（課題レポート・予習・復習など）の時間は1時間台の科目が多く、全学平均1.36を超えるのは、1・2年生の基礎看護の科目（特に演習科目）や専門基礎科目で、2年生の看護援助論の科目は、ほぼ1時間、3年生では1時間を下回るものが多い。
①	理 由	2年生・3年生では、専門教育科目の科目数に大きな差はなく、事前事後で課題が出されている科目が多いにも関わらず、学年が上がるごとに授業外の学習時間が減っている。3年生の各看護援助論の授業評価では、難易度、役立ち感や関心、目標到達度が全学平均よりも低い。他の科目と関連がある看護専門科目での、様々な資料を調べながら理解を深める学習方法が身につけていない可能性が考えられる。
②	課 題	必修科目に関して、自分がなりたい職業に関係ない講義を受けなければならない理由が分からないとの自由記載があり、全体的にも、意味や必要性が分からないことに改善を求める意見が少なからず見られた。不要なことは行いたくないという意向が伺われ、学習の必要性を十分に理解しないまま授業を受けている学生もいる。
②	理 由	興味・関心の低いものについては、授業での説明やシラバス等の資料からも情報を十分に得ていないことが考えられ、学習の必要性を理解できず、学習のモチベーションが低下している可能性がある。
③	課 題	【継続】 授業評価では、教材の適切さや分かりやすさは、極端に低い科目も見られた。学生の自由記載では、同じ科目に対して「資料が多すぎて大事なことがわからない」「ポイントが整理されていてわかりやすかった」など相反する記載があった。資料作成の際に、学生が主体的に学ぶことなどを考慮する教員の意図に対し、学生の捉え方には差があり、要点を各自で整理する必要があるものは、否定的に捉える傾向がある。
③	理 由	大事な点や学習に必要な情報を明確に示して欲しい等の学生からの要望が少なからずあり、これらのことを学生自身で行うことが難しくなっている。

1-②. 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	<ul style="list-style-type: none"> ・入学時のオリエンテーションやスタートアップセミナーの学群企画の学習の中で、カリキュラムの構成や科目関連図などについて説明し、ディプロマポリシーとの関連の理解を強化する。 ・初回講義等で、各科目の到達目標とディプロマポリシーとの関連を説明するようにし、入学時だけでなく、各学年でディプロマポリシーを意識した学習となるようにする。 ・2年生の前期頃に、4年生から、専門科目の学習方法など聞く機会を設ける。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・①を実施する。 ・キャリアガイダンスなどで、学生時代の学習が、それぞれの職業で、どのように生かされているかなど知る機会を設ける。
③	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、学生が授業を通して、読む力、情報の中から要点をまとめる力を身に付けられるよう、資料や授業展開を工夫する。 ・教員間で講義資料等を共有し、資料の作成や授業での活用方法を検討するFD等を開催する。

2-①. 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

- ・上級生（4年生）からの演習でのTAを行ってもら（質問のしやすさ、実践的な学習につながっている）。
- ・授業の単元ごとに小テストを行う（復習になると好評価を受けている）。
- ・課題への教員からの個々へのフィードバックコメント（自身の学習で不足しているところの理解につなげている）。

2-②. 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

- ・FD等を開催し、各教員が取り組んでいる授業展開の具体例（講義資料の共有、事前・事後学習の内容や方法など）を共有するなどして、学生の主体的な学修の支援方法を検討する。

令和5年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	事業構想学群
学 群 長 名	中田千彦

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	今年度は新任の教員による前任者の科目を引き継いで実施するケースが多かったことにより、授業内容の継続性や質の維持が懸念された。
	理 由	定年退職教員があったことから、人事計画において科目を引き継いで担当できる教員の採用に取り組んだ。退職教員の残したシラバスなどを新任教員がしっかりと引き継いで科目の特性を理解した開講ができるか危惧された。
②	課 題	対面授業が本格的に復活し定着しているが、内容によっては遠隔授業などを活用して実施することで就学の効率化、合理化が図られる可能性もある。
	理 由	大和キャンパスへの公共交通機関（バス）が減便するなど、通学において不便が生じていることが指摘されている。悪天候などで交通が麻痺したり、混雑により遅延が生じたりするなど、学生の通学の環境悪化も懸念されている。
③	課 題	必修科目・選択科目の別が今後主要科目かどうかという位置付けに変わる中で、それぞれの授業内容の組み立てを主要科目群とそうでない科目の配置を工夫して就学体系を整えていく局面にあることが考えられる。
	理 由	これまで必修科目数を検証し、選択科目かする中での就学の幅を広げる工夫をしてきたが、それとは別に各人の学びの中での重要科目群と履修内容の構成をいかにすべきかを学生が適切に検討できる仕組みの構築が急務である。

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	新任教員には着任前より引き継ぐ科目のシラバスなどの情報を提供し、また授業の進め方に関しては丁寧に打ち合わせを行うことで科目としての継続性や質の維持はなされたと思われる。また、その科目の特性や特徴を十分に理解した上で、新しく着任した教員による独自性をもった科目の運営についても積極的に検討がなされたことで、世代交代に応じた科目内容のブラッシュアップや点検が行われ、改善に向けた動きが見られる点は特筆すべき話題であると考えられる。
②	時間割にしたがって教室が埋まることによりカリキュラムが遂行されるというこれまでの授業運営の体系においては様々な困難が生じている。遠隔授業などを活用し、在宅あるいはキャンパス以外の環境でも履修ができ、それにより学習の効率効果が向上するような科目運営にも注力し、他方では登校、通学することにより学びが充実、充足する演習やその他の科目、課外活動の活性化などをうまく組み合わせ、取り入れていくことで大和キャンパスのロケーションが不利にならず、かつ有効活用ができるカリキュラム体系を整えていく必要がある。
③	過去においては履修モデルを示すことで必修科目と選択科目を適宜組み立てるというやり方が一般的であったが、それぞれの学類における学びの多様性が増す中で、一義的なモデルの提供ではそれぞれの学生の就学欲求を満たすことが難しくなってきた。主要科目化の流れもそれに拍車をかける可能性があり、大学として科目群の構成、教員の配置、学位取得までの学びのトラッキングをどのように学生のための合理的な方法として用意できるかが今後の重要な課題と言える。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

災害の科学：野外で行う環境計測が実施できてよかった。現地観測データをグラフ化して環境の変化を把握することで、理解が増したと考える。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

反転授業を導入していた場合においても、今後の科目運営の多様性は必須であり、対面、教室での着座の授業にとらわれず、様々な科目運営の手法の発明的な開発が必要である。時間割の検討の段階からこうした開発を視野に入れた就学の仕組みを検討していくことが今後の宮城大学での学びの魅力になっていくと考えている。

令和5年度前期 学群教育改善計画

学 群 名	食産業学群
学 群 長 名	井上 達志

1-(1). 授業評価アンケート結果を踏まえ、学群で改善すべき重点課題とその理由について3つ挙げてください。

※なお、前回から継続して同様の課題を記載する場合は、冒頭に「継続」と記載してください。

①	課 題	生物学や理化学的知識が必要な科目において授業内容の難易度および進度を再検討する必要があること。
①	理 由	高等学校での学習の復習も含めた事前・事後学修が不十分である。履修生によって高等学校で履修した科目に違いがあり基本的な知識が欠如していること。
②	課 題	学生が授業の内容について「大事なところ」が何であるか示すよう希望している科目が散見される。
②	理 由	知識として覚えることが多い内容の授業では覚えるべき部分を示せば評価は高くなる。しかし、理論的な流れが説明されそのプロセスを理解するような授業では「大事なところ」はそのプロセスであり学生自らが主体的に理解すべきであるが、そのことに対する理解が不足している。
③	課 題	週当たりの授業外の学習(課題レポート・予習・復習などに要した時間が0.5時間から7時間を超過するなど大きなばらつきがみられること。
③	理 由	レポートなどの課題の設定が適切となっていない可能性がある

1-(2). 上記のそれぞれの課題を解決するための取組と、それらの取組を具体的にどのように進めていくか書いてください。

①	食産業を学ぶ上で高等学校で学ぶ内容も含めて生物学の知識、化学の知識、場合によっては物理学の知識が必要とされる科目が少なくない。大学入学後は高等学校で学んだ知識が相当に忘れられていることが多く、基盤教育ある程度リカバリーはするものの、学修の目的が単位を取得することに注力されており、その後の専門科目の学修に繋がっていない。これらの科目の重要性、学修した内容を踏まえた上でなければ専門科目の理解につながらないことを理解してもらう。
②	ディスカッションを取り入れた授業は解決策の一つであるが、学生は「浮く」ことを避ける傾向が年々強くなり口頭での活発なディスカッションにつながってゆかない。PC のアプリケーションをつかった匿名性を高めた文字でのディスカッションの利用も試みる。
③	科目担当教員に再度、予習・復習、課題の設定が適切であるか確認を依頼する。

2-(1). 各科目の授業改善計画から、授業実施・授業改善の良い事例を挙げてください。

反転学修は、学びに関する学生の自主性を高める上では効果が大きいと考えられ、科目によっては積極的に導入すべきと考える。一方で、授業の進行により臨機応変に対応する必要もあり、教員の負担も大きいのが課題である。

2-(2). 上記の事例を学群の中でどのように共有して教育改善につなげていくか書いてください。

学生の主体的な学びを推進する上で様々な教育の実践方法が考えられるが、反転学修もその一つである。上に挙げた事例はその好例と考えられるが履修学生数が11名と少ないことも考慮されるべきである。